

(令和2年8月24日)

< ワンポイントレッスン (理論・基礎知識) >
(分散投資と集中投資・その1 (考え方))

資産運用での「リスク」は、一般的に使われる「危険」ではなく、平均値から上方または下方に乖離することを言います。通常、ポートフォリオに組み入れる銘柄数を多くすれば、ポートフォリオの収益率は平均値に近くなり (=リスクが小さくなる)、逆に銘柄数を少なく絞った投資をすれば収益率は平均から大きく乖離することが多く (=リスクが高くなる) になります。

ただ、単純に投資する銘柄が多い・少ないことで、分散投資、集中投資と区分するわけではありません。分散投資は、銘柄の分散を図ることでポートフォリオの収益率を平均値に近づける (リスクを小さくなるようにする) 投資手法であり、集中投資は投資対象を絞ることで収益率が平均値を上回る (うまく行けばリスクを上方に大きくとったことになる) ことを目標とする投資手法です。目的が明確であり、目的を達成するための「手法」が異なることがポイントです。

(分散投資・集中投資)

	分散投資	集中投資
目標収益	インデックスに連動	絶対収益
リスク	小さいこと	プラスに大きいこと
銘柄数	多い方が連動性大	少なくともOK
ベンチマーク	指数・平均株価が多い	別途設定
ポートフォリオ	多額の資金が必要	資金は小さくても可
投資スタンス	パッシブ	アクティブ
投資手法	多くない	多種多様
運用のタイプ	インデックス型	アクティブ型
運用評価	連動性チェック	絶対パフォーマンス
視点	マーケットをみる目	業種・個別銘柄を見る目

分散投資の代表的なのは、指数に連動するように運用する「インデックス・ファンド」。集中投資は、地域、業種、投資テーマなどに銘柄を絞った運用などがあげられます。

興味のある銘柄を次々と組み入れた結果、インデックスに近いポートフォリオになっていたということがないように、時にはチェックが必要です。